

5-5 故障診断の進め方

1. エンジン コントロール システムには、不具合箇所を診断するダイアグノーシス機能を備えており、故障診断を行う場合の重要な手掛かりとなる。
また、本システムのダイアグノーシスにはバッテリー バック アップ(IGスイッチを"LOCK"にしてもダイアグノーシス記憶用電源が供給される機能)が装備されている。

◇1.不具合車両入庫

▼ ◇2へ進む。

◇2.問診

1. お客様から不具合の発生条件、環境、現象を十分に聞き出す。
▼ ◇3へ進む。

◇3.エンジン チェック ランプの状態確認と記録

1. IGスイッチを"ON"にしたときと、エンジン始動後のエンジン チェック ランプの点灯状態を確認、記録する。

	IGスイッチ"ON"時	エンジン始動後	判断
エンジン チェック ランプ	点灯	消灯	a
	点灯	点灯	b
	消灯	消灯	c

▼ a、bの場合は、◇4へ進む。

▼ cの場合は、以下の作業を行い問題なければメータを交換する。

- (1) バッテリ～メータ間のハーネスおよびコネクタ点検
- (2) メータ～EFI ECU間のハーネスおよびコネクタ点検
- (3) EFI ECUの電源系統およびアース系統の点検

◇4.ダイアグノーシス コード確認と記録

1. SSTを使用して、DLCの端子 5(EFI-T)～13(E)間を短絡させる。

SST 09991-87403-000
 09991-87404-000

2. メータ内のエンジン チェック ランプに出力されるダイアグノーシス コードを確認、記録する。

【参考】・故障診断装置で故障時データを確認できる場合は、ダイアグノーシス コードを消去する前に故障時データも記録する。

▼ ◇5へ進む。

◇5.不具合現象確認

1. 不具合現象を確認し、不具合状況を確認する。

▼ ◇6へ進む。

◇6.ダイアグノーシス コード消去

1. ダイアグノーシス コードの消去を行う。

▼ ◇7へ進む。

◇7.不具合現象の再現確認

1. 不具合現象を再現できるか確認する。

▼ 不具合現象が再現できた場合は、◇8へ進む。

▼ 不具合現象を再現できなかった場合は、◇9へ進む。

◇8.ダイアグノーシス コード再確認

1. ダイアグノーシス コードの再確認を行う。

▼ 異常コードが出力される場合は、◇10へ進む。

▼ 正常コードが出力される場合は、◇9へ進む。